



兵庫県
岩田歯科医院
岩田 淳 先生

ハーモナイズを使用した 上顎両側中切歯修復症例

近年、接着システムとコンポジットレジン性能の向上により、補綴修復方法における治療選択肢の中で、コンポジットレジン修復の適応症例が増えてきたと思われま

す。広範囲の歯質欠損を含む症例においても、以前はクラウンやポーセレンラミネートベニアによる補綴修復が適応とされていたものが、適切な接着操作を行うことでコンポジットレジン修復による対応が可能となり、長期予後も得られるようになってきました。そのため、次の一手として、再介入時に再度コンポジットレジン修復で対応可能な場合も多く、MIを考慮した治療を提供することができます。もちろん、コンポジットレジン修復が適応となるか、術前に診査診断を行う必要があります。前歯、臼歯、どちらの修復においても、必要であれば模型診断や診断用ワックスアップを行い、修復後の形態が機能的に問題ないか充分に確認する必要があります。

ハーモナイズは優れた操作性、色調再現性、研磨性を備え、審美修復の1つとしてコンポジットレジン修復に取

り組み始めた先生にとっては、非常に導入しやすい製品であると思います。また、以前よりコンポジットレジン修復に注力されている先生にとっては、満足できる製品であると言えます。

ハーモナイズを使用した臨床的な実感を述べさせていただきます。製品構成としてインサイザルトランスルーセントがクリア、スーパークリア、アンバー、ブルー、グレーの5種類と充実し、前歯の適応症例が非常に拡大すると思います。前歯の透明性にはさまざまなバリエーションが存在しますが、ハーモナイズのインサイザルトランスルーセントを使用することで、さまざまな前歯の症例に対応することができると思います。操作性に関しても賦形性と器具離れがよいため、積層充填を行う際は3次元的に適正な層へ適正な形態を与えて築盛することが可能です。研磨に関しては、従来の方

法で容易に行えます。ハーモナイズを使用することで、コンポジットレジン修復が今まで以上に魅力的になるものと思われま



1 術前。上顎両側中切歯近心隣接部に、不適合充填物を認める。



2 カーのオブチダムを用いてラバーダム防湿を行い、不適合充填物とカリエスの除去を行う。



3 診断用ワックスアップより製作したシリコンコアを用いて舌側壁を築盛、マトリックスとウェッジを併用して隣接部の築盛を行う。



4 術直後、研磨終了時の唇側面観。



5 ハーモナイズのデンチンA2およびA3、エナメルA2、インサイザルトランスルーセントのクリアを使用。



6 術後1週間経過時。